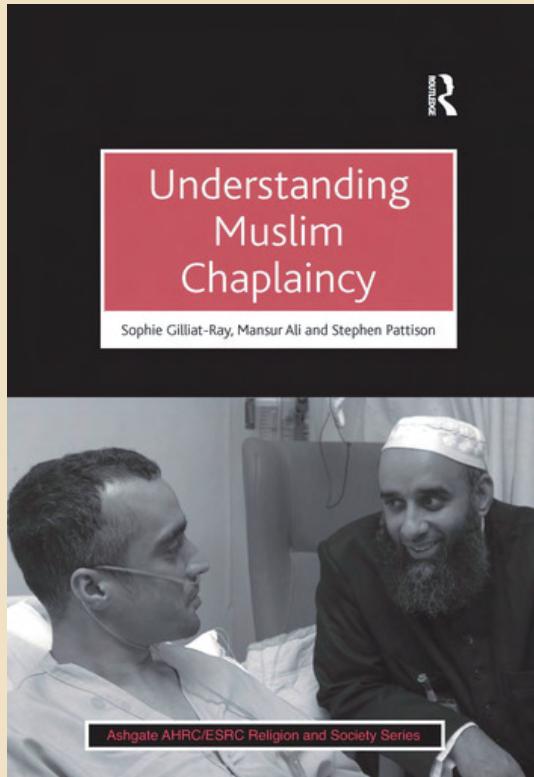


UNDERSTANDING MUSLIM CHAPLAINCY



Chaplaincyチャプレンシーとは、キリスト教の牧師を指すchaplainから来た語ですが、近年は宗教の種類を問わず、病院、刑務所、軍、学校等において、宗教的なケアやアドバイスをおこなう実践を指す言葉として使われています。今回紹介する書籍では、イギリスにおけるムスリムを対象とした宗教的ケア・アドバイスに関して、実践者の活動の場や人材育成、それぞれの取り組みから見えてくる政治的な状況が記述され、考察されています。

日本において、ムスリムに対する宗教的ケアや宗教的配慮が議論される場合、食事や薬品のハラール対応や礼拝場の設置、男女間接触回避の対応、女性のベールの着用などが注目されがちです。しかし、ムスリム・チャプレンシーの活動を知ると、それがより広範囲な社会生活に関連した相談・支援活動、そしてムスリムがマイノリティとして生活する社会における権利擁護とも結びつく状況が見えてきます。

今回の巣ごもり読書会では、日本やその他の国での取り組み等についても情報交換ができたらと考えています。

2022 1.9 Sun 17:00-

オンライン
開催

【今回の課題図書】

Sophie Gilliat-Ray, Mansur Ali and Stephen Pattison, *Understanding Muslim Chaplaincy* (AHRC/ESRC Religion and Society Series), 2016, Routledge. (First published by Ashgate Publishing in 2013)

◆語り手 細谷 幸子(国際医療福祉大学) 葛西 賢太(上智大学)
◇司会 葛西 賢太(上智大学)

【登壇者紹介】

◆葛西 賢太 Kenta KASAI

上智大学グリーフケア研究所特任准教授。東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化専攻博士課程修了。博士(文学)。研究対象は、宗教と心理学との対話史、仏教心理学、死生学、依存症回復と宗教、傾聴者養成。主な編著書に『断酒が作り出す共同性——アルコール依存からの回復を信じる人々』(世界思想社、2007)、訳書に『アルコホーリクス・アノニマスの歴史』(アーネスト・カーツ著、明石書店、2020)がある。

◆細谷幸子 Sachiko HOSOYA

国際医療福祉大学成田看護学部教授。東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程修了。博士(学術)。イランの医療・福祉に関する調査研究をおこなっている。主な業績に「イランのスピリチュアルケアの現状」(『グリーフケア』8:195-208、2020)、『イスラームと慈善活動——イランにおける入浴介助ボランティアの語りから』(ナカニシヤ出版、2011)がある。

【参加方法】

参加用URLはご登録いただいたメールアドレスに当日正午までにお送りします。

【主催】

科研費基盤研究(A) イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究(代表:長沢 栄治)

【問い合わせ先】

イスラーム・ジェンダー学科研事務局